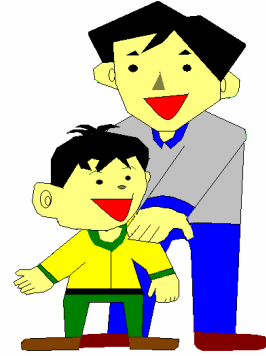


# 子どもは大人を見ています。

電車に乗っている小学校低学年の男の子とその父親

お年寄りが一人、乗ってこられた。  
(座席に)座っていた父親が、すぐに席をゆずった。  
「お父さんの知っている人？」と男の子

父親は答えた。  
「人生の大先輩だよ。」



満員電車で、赤ちゃんが泣き出した。  
けわしい視線が母親に集まる。  
と、年配の女性が母親に話しかけた。



「眠いのかしらねえ。」  
母親は「うるさくしてごめんなさい」とあやまる。  
女性は続けた。  
「何を言っているの。一番大変なのはあなたじゃないの。お母さんが一番つらいのよね。」

車内の空気がやわらかくなった。

(朝日新聞 2000年9月24日付、天声人語より)

人権尊重の精神は、人格が形成される早い時期に、感性としてはぐくまれます。豊かな情操や思いやり、善悪の判断など、人間形成の基礎をはぐくむ上で、家庭の果たす役割は大きいものがあります。

子どもは親や家庭の考え方や態度に大きく影響を受けながら成長していきます。「人間の尊さ」や「人を大切にする・重んじる」という気持ちを家庭の中から育てていくことが、今、改めて求められているのではないのでしょうか。